

モミコスジオビハマキ

春にトドマツの新芽を糸で綴って食べるイモムシ（幼虫）。最大長約20mm。体は黄色から黄緑色、背中に小さな黒点がある。頭とそのすぐ後は黒い。尾端背面はオレンジ色。

トドマツ人工林でときどき多発する。以前はコスジオビハマキと混同されていた。



1. 幼虫。1985/6. 余市町, トドマツ。



2. 成虫。1968/7.



3. トドマツ被害。1966/6/23. 当麻町。



4. 食害, トドマツ。1975/6. 美唄市。

【学名】 *Choristoneura jezoensis*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道。

【特徴】

トドマツ林ではマツアトキハマキ, タテスジハマキ, クロタテスジハマキなども多発するが, これらの終齢幼虫は体が緑色で, 黒い点がない。

【生態】 トドマツなどモミ属のほかに、トウヒ属やカラマツにも寄生する。

年1回発生。幼虫は春に新葉を糸で綴って食べる。6月には十分成長し、葉を糸で束ねて中で蛹になる。蛹は7月頃に成虫になる。雌成虫は葉に卵を数個ずつまとめて産む。夏に孵化した幼虫は枝や幹先端に移動し、樹皮の隙間などに潜って繭を作る。その中で脱皮し2齢になって休眠・越冬する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
幼虫（休眠・越冬）	+++	+++	+..		..	+++	+++	+++	+++
幼虫（摂食・成長）			..■■■	■■■..					
蛹				..◇	◇..				
成虫・卵				..	○○..				

【被害と防除】

道央のトドマツ林でときどき多発する。20～30年生の林に多いようである。食害は従来1～5年続いているが、1～3年で終わるのが普通である。食害により木が枯れた記録はないが、何年も続くと枝枯れを起こすことがある。防除は普通必要とされない。

【文献】

- *1970. 上条一昭, 鈴木重孝. トドマツ造林地におけるハマキガの大発生とその防除. 森林防疫, 19: 79-83. (大発生要因, 被害, 防除)
- *1971. 上条一昭, 鈴木重孝. 光珠内季報 トドマツの大害虫コスジオビハマキ. 光珠内季報, 7: 2-14.
- 1973. 上条一昭. コスジオビハマキの寄生性昆虫. 日本応用動物昆虫学会誌, 17: 77-83. (天敵)
- *1979. 鈴木重孝. コスジオビハマキの予察と防除. 森林防疫, 28: 33-37. (生態, 天敵, 天然林と単純林とでの発生の違い, 予察)
- *1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)
- 1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/24.

yochu.JPG

「写真1」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1985.

seichu.JPG, higai.JPG, higai2.JPG

「写真2～4」 上条一昭, 北海道立林業試験場, 1966-1975.